

# WEEKLY NEWS 第2640地区 和歌山東南ロータリークラブ 2011-2012年度

例会日：水曜日

第1・第2 夜間・18:30～

第3・第4・第5 昼間・12:30～

例会場：華月殿 和歌山市屋形町 2-10

事務局：〒640-8215 和歌山市橋丁 23  
サイバーリンクス N-4ビル 2階

TEL 073-423-3666 FAX 073-423-7200

http://www3.cypress.ne.jp/tonan-rotary.html

E-mail : a-rotary@coral.cypress.ne.jp

会長：溝落和作 幹事：籠田 弘  
クラブ会報委員長：赤在依美 副委員長：郷間博敏



週報  
通算 1984回  
24号



加勢のラン科 多年草 開花期 6月～7月

本日の例会  
2月1日(水)  
18:30～華月殿

ロータリーソング：君が代・われ等和歌山東南ロータリー  
行事：41周年記念例会  
「姉妹クラブの馴れ初め」 太田豊隆会員

次回の例会  
2月8日(水)  
18:30～華月殿

行事：会員卓話 山本唯二会員  
「続 財団寄付の行方」

## 先週例会報告

ゲスト・ビジターはございません。

会場監督 中谷敬子

### 会長報告

溝落和作 会長

○皆様、朝早くよりご苦労様です。本日よりよろしくお願いいたします。



### 幹事報告

籠田 弘 幹事

○本日、幹事報告はございません。



### ニコニコ箱

山田さち子会計

溝落君・本日は朝早くからご苦労様です。  
よろしくお祈りします。  
市川君・I.M.成功できますように。  
会員7人分・お茶会のおつり。



### ロータリー財団

山田さち子会計

溝落君・I.Mが成功裏に終わりますよう 皆様よろしくお祈りします。



## 《ロータリアンの10徳》 ⑨ 健康になる。

	ニコニコ	米山奨学金	ロータリー財団	東南育英会	東日本大震災 義援BOX
累計	1,419,397	242,000	410,000	11,000	37,000

出席報告	出席者	出席率
会員総数	51名	84.31%
出席免除会員	2名	90.00%





「歓迎の挨拶」 会長 溝落和作

皆様こんにちは。只今より国際ロータリー第 2640 地区第 3 組のインターシティミーティングを開催いたします。今回は私共 和歌山東南ロータリークラブがホストを努めさせていただきます。

私共 IM 委員会は市川委員長のもと、昨年の東日本大震災、それに伴う原発事故、台風 12 号の豪雨による紀南の大災害に対してどのような支援の取り組みが必要か。又各ロータリークラブがどのような支援を考えているか、実践されているかを発表していただき勉強する機会が必要であるとの結論に達し「災害の予防と被災後の支援のあり方について考える」をテーマとさせていただきました。我々ロータリークラブでは国内・国外で積極的に奉仕活動にクラブ単位、クラブ会員企業で支援の手を差しのべていますが、復旧するまで何年かかるかわからない大災害に対しては息の長い支援活動が必要だと思います。「被災後直ちに行う支援」「長期的に行う支援」「行政と共にやる支援」と色々な支援方法があると考えられます。このインターシティミーティングで各クラブのパネリストの皆様にご発表いただいたことが、今後の我々クラブの奉仕活動の指針になれば幸いです。

第二部は広川町の「稲むらの火の館」の館長 熊野享様に「濱口梧陵と津波防災」をテーマに講演をしていただきます。

本日災害復旧で大変お忙しい中、和歌山県副知事「下 宏様」がお見えくださっています。のち程、挨拶を頂戴いたします。

最後に紀南の豪雨災害は 2640 地区の多くの仲間や友人が被災され、会員皆様の心を痛めていることと思います。今後、積極的な支援活動に取り組んでいただきますことをお願いいたします。そして、このインターシティミーティングが有意義なものとなりますことを祈念して開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



来賓の挨拶  
和歌山県副知事 下 宏様



参加クラブ出席報告  
有本 隆行登録委員長



司 会  
中岡 隆文 S.A.A.



テーマ趣旨説明  
市川正夫 IM 担当委員長



濱口梧陵記念館 館長 熊野 享様



閉会の挨拶 竹中 IM 担当副委員長



次回ホストクラブ会長挨拶  
和歌山城南 RC 廣田俊樹会長



## 第1部 全体会議「テーマについて各クラブからの報告と提言」 和歌山東南ロータリークラブ パネリスト 谷口 拓会員



皆様こんにちは、和歌山東南ロータリークラブの谷口です。

今回、発表テーマが、「災害の予防と被災者支援のあり方」ですが、時間の関係上、主に災害の予防のあり方について、発表させていただきます。なおいままで各クラブの発表内容と重複する点もございますが、その点をご容赦下さい。

今般東日本大震災がおこり、津波の脅威というものを目の当たりにしました。また和歌山県下においても台風12号による洪水土砂災害が起こり、多数の犠牲者が出て、復興には今なお時間を要する状況であります。

これまで各方面で災害対策が取られてきましたが、災害の危険が現実化した今、我々にとっての災害対策を考えていかなければならない時が来たのです。

災害の予防を考える上で、最も大きな予防策としては、防災教育ではないでしょうか。

当然、避難経路の確保、住宅等建築物の耐震補強等ハード面の整備が必要であることは言うまでもありません。しかしロータリークラブとして地域に何ができるかということ考えた時、防災教育の充実こそが、地域社会における活動としてふさわしいものであると考えます。

東日本大震災において、釜石市内の児童・生徒のほぼ全員が逃げ延びられたいわゆる「釜石の奇跡」の例を挙げてみても、日頃の防災教育が、災害における被害拡大の防止という点で最も重要な要素であると思われれます。

ここで、「釜石の奇跡」について若干ご説明します。

「釜石の奇跡」とは、防災教育の一環として、群馬大学大学院災害社会工学研究室の片田敏孝教授と金井昌信助教が指導し、釜石市内の小中学校生に防災教育としての「避難3原則」をたたき込んだものであり、東日本大震災では、この「避難3原則」を忠実に守ったため児童・生徒たちが助かったというものです。

「避難3原則」とは、①想定にとらわれない、②状況下において最善をつくす、③率先避難者になる。というものであり、児童が校舎3階から校庭に駆けだして高台に向かったこと、中学生が率先避難者となり、小学生を導いたことは、全て3原則に基づくものであります。

この「釜石の奇跡」が教訓とすることは、日々の備えこそ最も大きな災害の予防策であるということであり、今後、ロータリークラブとして、地域と連携して児童・生徒を対象とした防災教育に取り組んでいくべきであると考えます。

未来を担う子どもたちに災害を身近なものと感じてもらい、常に災害が発生した場合にどのように対処していくのかを考える機会を持って頂きたいのです

当然今後起こりうる災害としては、津波災害、土砂災害、都市部では地震による建物倒壊等、様々なものが考えられます。そこでその地域で発生することが予想される災害を、地域の子どもたちに具体的に認識してもらい、その上で具体的にどのような避難を行っていくか、身を守る方法をどのように考えていくのかを再確認してもらうことで、来るべき災害に備えていってほしいのです。

そのための方法として、例えば、小中学生を対象として、防災に関する作文、例えば「もしあなたの街で地震が起こったら、どう対処するのか」といったテーマで募集し、優秀者に対しては、賞を渡すといったことも考えられます。子どもたちに災害について真剣に考えてもらう機会を設けるのです。そのとき、子どもたちは、地域ごとの災害発生時の避難経路はどこか考えるでしょうし、どのような手順を踏んで避難するのか考えると思います。また災害発生時に自宅にいるのか、学校にいるのか、あるいはどこかで遊んでいるのか、それによって避難の方法も変わってきます。そうした具体的な事実をもとに、実際の避難を想像して、作文を書いてもらうのです。

あるいは小中学校生を対象とした防災講座の開催、防災訓練への協力など地域社会と連携した防災教育を行っていく、これは地域に貢献していくというロータリークラブこそが取り組んでいくべき活動ではないかと考えます。

また最後に被災者支援について一言だけ申します。

いま東日本大震災による被災者には、未だ元の生活を送れない方がいます。台風12号による水害被害の被災者も然りです。このような被災者に対して、義援金による支援も当然ですが、なによりも被災者の心のケアをすべく、日頃から行政と連携した災害支援ボランティアの育成等の考えていくべきであると思われれます。特に高齢者等孤独になりがちな人たちの心のケアを行うボランティアの人たちをロータリークラブとして育成支援していく、そのことによって、地域に生きるロータリアンとしての役目が果たせると信じております。

以上、私からの発表を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

